



巻 頭 言

新 “ 緑 の 安全 協 ”

前 財団法人 日本植物調節剤研究協会 理事
前 農 薬 工 業 会 会 長 現 相 談 役
日 本 農 薬 株 式 会 社 代 表 取 締 役 会 長

小 平 祐

爽やかな秋風の中に、新しい社団法人“緑の安全推進協会”が登場した。緑地全般を視野に、横断的に安全問題を推進する構想の新法人である。その使命は重い。名を改めた元服姿の若者が期待を背負って緑の野に駆け出たかのようなのである。

名前がいい。“（社）緑の安全協”とは、美しい自然環境を、健やかな心と権威を以て守るという意味になろう。真に名が体を現わしていると思う。

“名が体を現わす”という語の意味は深そうだ。『玄奘訳成唯識論』に“名詮自性，句詮差別”（名は事物の本来の性質を現わし，章句は諸々の事象を現わす意）。又『聖愚問答抄』に“名は物をめす徳あり，物は名に應ずる用あり”などとある。原義は仏教版唯心論の基本概念に発し，深い淵を覗く思いがする。俗語“名は体を現わす”，料理用語“名詮”などはその深淵に浮んだ泡のようなものであり，浅い感じもあるが，奥深いものを示唆している。いい名を貰った新法人はどうか名前負けしないように頑張ってもらいたい。

新法人の背景には激化する環境問題がある。6年前の任意団体設立時のゴルフ場農薬騒ぎの後，リオ宣言，IPM思想の台頭，デラニー条項の問題，水質規制，食品残留，消費者パワーなど状況の変化はハイスピードである。

アメリカでも“RISE”（Responsible Industry for a Sound Environment）が設立され，マスコミも巻込んだ活動が始った。新法人は日本版“RISE”であり，世界の環境保全という現代の地球的課題を背負っている。どうか新法人は課題の重みに押されないように頑張ってもらいたい。

新法人は多くの人々の尽力と好意によって生

れた。まづ“全日本緑地管理協議会”が合流した。全農も，全農薬も，日植調他7団体も相携えて参画した。農薬工業会は資金，人的援助を進め，行政の強力な推進もあった。ゴルフ場の参画度合がまだ低い，学会の協力体制も整備中で，現段階で最強の新組織である。どうか新法人はこの設立過程を踏まえ，人々の期待に応える様頑張ってもらいたい。

新法人の運営の基本は構成メンバーの理解と協力である。防除業界の技術力，全農の組織力，全農薬の活力，諸機関の企画力，農薬メーカーの総合力，当局の指導力など，諸々の力が一つにならねばならない。又広範囲に大切なお金が集められ，無駄は許されない。何を為すべきか，何が大切かを見極めねばならない。どうか新法人は目標を定め，人々の力を束ねよう頑張ってもらいたい。

さて新法人の設立ドラマの山は“全日緑協”の発展的解散と参画である。同協議会創立の親，吉沢さんと，会長の山本さんの英断に深く敬意を表したい。又関口さん，柿本さん，佐々木さんほかの関係の皆様のご献身的なご尽力には頭が下る思いである。変則で，恐縮の限りながら，本巻頭言欄をお借りして諸賢への礼状に代えさせて頂きたい。

めでたく“社団法人・緑の安全推進協会”は船出する。全農薬関連業界の総意の結集の賜物である。併し，新しい社団法人を作ったという自己満足に終ってはならない。大事なことは社会に向けて確かなPRをすることである。

どうか新法人は期待に背かない活動をしてほしい。新“緑の安全協”が新時代の農薬業界のシンボルになってほしいと願っている。